（参考様式１）

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール　　令和７年【竹の宿】　　令和７年１１月１４日　　令和７年１２月１２日

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念の意味について理解を深め、実践に繋げる努力をしている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない (D.) ほとんどできていない	ボランティアの受け入れや地域行事への参加ができていない。一部職員のみが、地域行事に参加している。	施設が地域との繋がりを持つという事には難しさがあると思う。町中にある施設では盆踊りなど地域行事に参加したり、また見るだけでも楽しめているという場合もある。苑内の運動会等の行事の案内を出して家族に見てもらえるような機会を考えている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会議には桑名市や地域包括支援センター担当者、家族代表、地域代表に参加頂き、サービスの実情を報告、意見交換で出された助言等をサービスの向上に活かすよう努めている。運営推進会議での外部評価を実施している。	二か月に一回の会議の参加では施設内の様子が分かりにくいという事がある。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(A.) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に運営推進会議の場で事業所の課題について伝え、意見を求めている。	運営推進会議で情報も伝わっており連携は取れている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回、身体拘束についての研修会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知している。月1回のケアミーティングにて検討し、2か月に1回の委員会（運営推進会議）で報告している。「言葉による拘束」に繋がる言葉かけを行わないよう、教え合う体制を作っている。ユニット間の交流をする機会や玄関外、テラス等へ出る機会を作り、閉塞感のない環境づくりに努めている。		A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	帰宅願望があり外に出たいという利用者には、面会の予定があれば伝えてその日を待ってもらう。又生活の中で役割を持ってもらう事で、楽しみや家にいることよりも良いと思えるように心がける。物理的な拘束よりレベルの高い言葉による拘束になっていないか気にかけていて素晴らしいと思う。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めて	A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止の研修会で学ぶ機会をつくり、週１回のカンファレンスや月１回のミーティング、毎日の申し送りなどで不適切介護を含めて検討し、常に注意と防止を呼び掛けている。		A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	不適切介護について、通常の介護であっても皮下出血を起こしやすい人には介助の力加減は難しく特に注意して介助する。排泄の確認について自分でできる利用者に対しても一律に行ってしまい気

		いる					分を害してしまったということがありその点も注意を払っている。現在動けない利用者はどのくらいいるのか？自分で歩ける入居者ばかりだが、歩く際に転倒リスクが高い人や指示が伝わり難いため行動が解らず介助量の多い人がいる。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	制度について学ぶ機会をつくり、関係機関へ繋ぐ重要性の理解に努めている。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時の説明を行いながら疑問点に答え、入院時や制度の改定などによる状況の変化がある場合にも説明を行い同意を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会話や日頃の関わりの中で利用者の思いを汲み取る様に努めている。家族の来所時や電話で、意見や要望を聞く機会を設けている。体調管理や活動においては個別の対応に努めているが、意向を運営へ反映できないこともある。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自分の意思を伝えられない利用者に対しても思いを汲み取り対応できるように、認知症チームケアで個別に検討している。極力本人の意向や家族の思いも汲み入れてもらえているので良い。反映できない意向には、どのように納得してもらえるかが重要。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週1回のカンファレンスや、月1回のケアミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設け、日常的にも管理者に言える状況を作り、必要に応じ法人会議にかけている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得の支援、勤務状況の把握、働き方改革への取り組み等を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員には評価表や OJT 等で個々に目標を決めてもらい個別に評価をしている。5S 活動においては職場の環境だけでなく業務の改善も進めている。デジタル化を進め職場の働き方改革が言われているがどうか？人と向き合う仕事のため難しさはあるが書類等に関しては簡素化できるように見直しをしている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修を受ける機会が確保され、法人外研修は、管理者や職員の希望に応じて参加している。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の研修については人員が不足しないように時期を調整し行っている。限られた時間の中での取り組みがある。伝達研修や OJT など活用して進めてほしい。

13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	三重県地域密着型サービス協議会や地域で行われる研修会、または、活動に参加することで同業者との交流を図っている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑を「生活の場」として、家庭的で楽しい雰囲気にすること、信頼関係を築くこと、また利用者が助け合いの心を持つことを大切にしながら、出来ることはお願いしている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの人との交流や場所へ行くことは、面会や外出の機会に家族の協力を得て行っている。職員は、日常の会話の中で個々の懐かしい話を話題にするよう心掛けている。	外出が難しい時期には出身地で行われる祭りのスライドショーを見て楽しんでもらったりしたが、今は家族との外出時に協力を得ている状態である。馴染みの美容院に今も通っている人もいる。苑内の買物がある時は市内の店に職員と一緒に行っている。		
Ⅱ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活の中で、「本人はどうしたいのか」を聞き取り、または、感じ取ることで、意向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別援助計画を作成し、週1回カンファレンスを行いモニタリングを実施。目標の達成度について話し合い、本人、家族の意向や職員の意見を個別援助計画に反映している。また、認知症の行動・心理症状への対応方法についてチームで話し合い、入居者にとって安心な暮らしの実現に努めている。	母の性格をよく知ってもらい上手く対応してもらえている。昔の母しか知らないということもあるが、徐々にできなくなってきたことなど最近の様子も教えてもらえている。 意向の聞き取りが遅れた場合でも家族からの意見は計画書に反映し作成している。	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	計画作成の為のカンファレンス実施から計画期間の開始までに1か月近く空いてしまうのを防ぐため、カンファレンス開催を月の中頃に集中して行うことを試みている。 今後も、課題が発生する毎に関係者間で連携を取りながら実効性のある対応をしていってもらいたい。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の様子やケアの実践は個別に記録し、申し送りやカンファレンスでその情報を共有しながら話し合っている。職員の気付きや工夫についても記録と情報共有に努めている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護記録には入居者の様子が分かるように、行動以外にも発言についての記録もするよう心掛けている。職員の記録だけでなく利用者の言動を時系列で記録することは重要だと思う。デジタル化が進みより良い実践へ反映されるとよい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	一時的に継続した医療の必要が生じた際の内科への通院支援を行っている。状態が変わり、個別の体調管理が必要になった場合は家族、主治医との連携を特に密にし、個々に合わせた支援を行っている。	一時的に継続した医療と言う点では、食事が摂れなくなり点滴に通院するという場合が多いが今現在はいない。メールでの対応の希望もあるが、個別で必要な物品の購入や補充もそれを通して利用者、家族、職員の間の繋がりの機会と考えている。		

					補充の際に職員から様子を聞くことができているので良いと思う。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	在宅時に利用していた美容院や診療所、商店などへは、家族の助けを借りて出掛けている。家族の介助で外出可能な場合は、本人と一緒にお出掛けして頂けるよう、家族にも提案している。	人数が多い集まりなどへの参加を希望される場合は事前に相談してもらえるとよい。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医を協力医に変更等の説明を入居時にしている。週1回協力内科医の往診がある。口腔や目の不調があった時は、本人や家族に治療についての意向を聞き、協力医へ伝えている。その他の医療機関への受診は、医療間連携と家族の協力を得て行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時、医療機関との書面と口頭による情報交換を行っている。また、居室の確保についての家族との相談、退院の見込みがついた時からの病院関係者や家族との情報交換、退院に向けての相談に努めている。		(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院については青木記念病院と連携をとり対応している。また過去の通院歴から転院を希望する場合についても対応している。退院時の状態で受け入れを検討し家族と相談。協力医療機関に限らず退院前には医療機関に職員2名が行き利用者の様子を見ながら退院前のアセスメントをしている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時や体調に大きな変化があった時に、本人、家族、主治医、管理者同席で、重度化した場合や終末期についての話し合いと意向の確認を行っている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	持病の進行があれば主治医が家族と面談をして伝えている。主治医との面談は家族もかなり安心してもらえるかと思う。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	急変や事故発生時のマニュアルを備え、研修と訓練を行っている。職員が自信を持って行動する為の、「実際に行動する訓練」に取り組んでいる。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害対応マニュアルを備え、年2回消防署員の指導の下、訓練を行っている。土砂災害を想定して、搬送方法の検討や備蓄品の見直しを適宜行っている。火災・土砂災害・地震について、想定訓練を行っている。	災害時の避難の状況を考えて通報機器のある場所に留まることなく移動しながら対応できる様に、消防から提案されたスマホ画面で現状の映像を伝える通報訓練を考えている。 二階から搬送する方法は解決したか教えて欲しい。傷病時の搬送用に担架を購入し昼間は隣接する老人保健施設ハートから応援がある。夜間は救	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていないに	定期的に施設内の全てのコンセントの不具合をチェックし修理を依頼している。次回の消防訓練時にはスマホで画面を映しながら対応する訓練を予定している。消防本部との連携も十分してもらえてよいと思う。

					急車を要請するので救急隊にお願いする。 現在自力で動けない人はいないが、認知力の低下により移動の難しい人はいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員アンケートにより確認された「声かけの仕方」や「プライバシーへの配慮」について話し合い、人格尊重やプライバシーの保護に努めている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	転倒リスクの高い利用者の見守り中に他の利用者のトイレ介助をしなくてはならない場合には、プライバシーに配慮することに注意しながら見守りと介助の対応をする。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事や入浴など、ある程度時間帯の決められた一日の流れの中で、利用者の思い、暮らしのペースを優先することを心がけ、柔軟な対応をしている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	米飯は苑で炊飯。副食は三食とも法人の厨房で調理したものを、苑で盛り付けて配膳している。食事前にメニューを伝えている。できそうな方やしたい方はテーブル拭き、自発的な下膳、食器洗いなどの片付けを職員と一緒に行い、意欲に繋げている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	朝食後の食器洗いでは職員の少しの見守りで出来そうな利用者が手伝っている。食事は利用者の楽しみの一つなので内容の維持をしてもらえたらと思う。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の様子観察、摂取量の記録をしている。食前の口腔体操、歯科に相談しながら噛む力の改善、ムラなく食べる為の声かけや食形態の工夫をし、個々の好みとタイミングに合わせた水分提供をするよう努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の力に応じ、声かけ、歯磨き、口腔清拭、磨き直し等の介助を行っている。自分でできる方にも、「できているか」の見守りをするよう努めている。歯科からの助言を受けケアの実践に活かしている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	以前は職員が介助についてのアセスメントをしていたが、今後は歯科医の評価表 OHAT(オーハット)によるアセスメントを活用し、口腔内の状態を介護に活かしていく。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の記録から、個々に合わせた声かけ、誘導等を行っている。また、トイレの場所を分かり易く表示し、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘については、原因別の個々の対応を検討し、主治医とも相談している。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	便秘について、センナ茶は利用者の様子を見ながら使用を始め状態に合わせて調整をしている。またその人に合わせた便秘薬の使用や運動などで対応している。便秘が続くと精神状態にも影響することがある。出来る限り薬に頼らないように対応されていて良いと思う。

32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1人につき、週3回程度入浴できるようにしている。時間帯は決まっていて、その中で本人の体調やその日の気分に合わせ、入浴の順番を変更したり、入浴日を変えるなどしている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はなるべく活動的に過ごせるよう、手作業や運動の機会を作りながらも、一人一人の体調や希望に合わせ、本人の落ち着く場所で過ごせるようにしている。心穏やかに眠りに就けるよう夕方からはゆったりとした雰囲気をつくるようにし、就寝時間は一人ひとりのペースを大切にしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化があった場合は薬との関係も意識し、薬情報で確認している。分からないことは、医師、看護師、薬剤師に相談し、指示を仰いでいる。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化に薬の作用があるかを薬局に確認して検討することがある。その他にも薬について質問をして確認をとることもある。医師、看護師、薬剤師との連携も十分できているので安心。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	持てる力に応じた役割や楽しみ事を続けられるよう心がけ、日々の活動に活かしている。利用者個々の持てる力に合わせた活動に参加できるよう、活動のチェック表を作り取り組んでいる。	活動のチェック表を参考に活動が偏らないように気を付けている。できる人にはお願いしていろいろな家事的作業をしてもらっている。 高齢になっても頼られるという事が張り合いになっていると思う。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	花見は市内の公園や道中の沿道に咲く桜を見て回った。秋には公園を散歩し、紅葉を楽しんだ。「苑の買い物のお手伝い」として、近くの店舗へ行く。個々の希望に沿っての外出は家族の協力を得ている。	現在は面会、外出は飲食可能となっている。外出後はマスクの着用など暫くは感染対策をしてもらっている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている (C.)あまりできていない D. ほとんどできていない	個人でお金を所持している入居者は殆どおらず、苑内で使う機会はない。近くの店舗での苑の買い物で支払いを手伝ってもらっている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話は自分で管理できる方に限って所持可となっている。手紙の返事を書く支援は本人の希望を聞いて行っている。また、季節の絵手紙を、それぞれが家族に向けて書いている。			

39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の身体機能に合わせた椅子やクッションを使い、リビングには利用者と職員が一緒に作った季節毎の飾り物を飾っている。温かいうちに食事が届き、職員が盛り付けを始めることで、食器の音や料理の香りがリビングに広がり、食事の時間が近いことを感じてもらっている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ニーズに合わせて部屋に物を置いている。つかまる場所として棚を設置したり、写真やタンス等が目に入ることで夜間の不眠や転倒の危険がある場合には場所の移動を検討している。できる限り住み慣れた「家」に近づける環境作りをしているのが分かる。家族の意向と本人のニーズが合わないことへの難しさを感じた。
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	聞こえ難さ等を含め個々のコミュニケーション方法に合わせた意向の聞き取りがされ、それぞれの暮らしへの意向に沿った対応がされている。それにより本人が思った生活リズムで暮らせている人もいるが、「たくさん歩きたい。帰りたい。」など希望の実現ができていない人もいる。希望は叶わなくても、職員に思いを話せる人は多い。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の発言や家族からの情報を基に、家族の協力も得ながらケアや支援を行っている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	医師の往診や薬の処方に安心し体調を職員に伝えやすい関係性が築けている。また個々に違う病状の経過観察や、口腔内の健康チェックを受けている。事故防止と自立の両面から、生活環境への配慮がされている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人が職員に何でも相談できる関係である。体調不良を言葉にして伝え辛い利用者に対し個別性を持って行動変化等からも推測して対応いただけていると伺い継続をお願いする。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者仲間と過ごす時間も大切にしながら自分のペースで生活できている。個別の生活習慣への対応については希望に充分に沿えない部分もある。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家具や棚の持ち込みは殆どないが置き物、仏壇、携帯電話、ラジオ、本、写真、ぬいぐるみ等思い出の品、衣類、時計や櫛など細かな日用品は身近にあり、安心を得る様子が見られる。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人が希望する物があれば一度相談をしてほしい。携帯電話の利用については決まりがありそれを守ってもらっているが、他の利用者に貸してしまいトラブルになることがある。携帯電話の使用など以前までは無かった事柄について規制を考える必要があり大変だが、利用者のライフスタイルに沿った対応をこれからもお願いする。

45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族の支援を受けながら冠婚葬祭や馴染みの場所、集まりに参加できている。外出が出来ない場合はテラスで日光浴や花の手入れをしたり、他のユニットで行う苑行事に参加することができている。外出については感染症の流行は今だ影響している。気候や感染症の発生状況を見ながらではあるものの、近くの店舗や公園へ出かける機会を作っている。	寒くなり感染症も心配だが出かけてみたいと思っている。 感染症を防ぐには今も3密への対策が有効で、人混みを避けて食事を摂るなどの対応をお願いしたい。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	やりたいこと、やりたくないこと、その日の気分などを職員に伝え、自分で選んで参加できている。職員が付き添うことで出きる事は一緒に行っている。一人ひとりの意欲と体調に合わせ、洗い物、針仕事、掃除などの家事的な作業や創作など趣味的な活動に参加できている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の自発的な活動への取り組みや入居者同士の自然な会話がある。一人ひとりの体力や興味にあわせた活動への参加ができている。		A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日行う体操への参加は良好となっている。利用者同士の会話も自然に生まれている。新しく入居者が入った場合など関係性を見てテーブル席の変更などもしている。体操など集団で行う事で利用者同士の関りや活気に繋がると感じた。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない (D.)ほとんどできていない	近隣や地域の人々との交流は、外出希望のある方が家族と共に外出し親戚、近隣の人と交流するのみとなっている。苑の取り組みとしては、苑の買物がある時に職員と同行して近隣の店舗へ買い物に出かけている。	苑から歩いて何処かへ出かけるという事が難しいため行動に制限が出てしまっている。出かける際は車での移動となっている。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	僅かな環境変化でも落ち着かない雰囲気になり易いが、職員は日々穏やかな雰囲気作りに努めている。入居者の間でも助け合いと感謝の言葉が聞かれる。親しくなった入居者仲間や職員と交流することで安心できる日々を送ることができている。地域との交流については課題がある。	地域の行事にも施設側が積極的に参加していかないと交流は出来ない。感染症を考えええると、訪問する側も何かあってはと気を遣う。施設側から交流が出来るような機会を作っていくことも大切。	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域に住んでいる人が行っているボランティアやその他の活動を取り入れ地域との交流に繋げていきたいと考えている。地域との交流はどの施設でも長年の課題となり、コロナ禍以降感染予防の意識向上もあり難しい状況であるが可能な範囲で検討していただきたい。